

CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



マテロー次レベル病院に導入された逆浸透 (RO) 水処理装置を点検する、ルサカ郡保健局のマタフワリ医療機器技術者 (中央) と JICA カシオペア・プロジェクトの安食専門家 (右)。

ルサカ州保健局、医療機器チャンピオンを招いた四半期会合を開催

マテロー次レベル病院、JICA からオートクレーブの供与を受ける



ルサカ州保健局、医療機器チャンピオンを招いた四半期会合を開催

5つの一次レベル病院（チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニヤマ、マテロ）にて、医療機器チャンピオンのオリエンテーションが実施されたことを受け、2025年12月11日、ルサカ州保健局とルサカ郡保健局は、医療機器の四半期会合を開催しました。参加者は、医療機器技術者、バイオメディカル・エンジニア、医療機器チャンピオン（リンクパーソン）です。本会合は、2025年11月13日に開催された前回会合の内容を踏まえて開催されました。

前回会合では、リモートメンテナンス、予防保全ログシート、作業記録とファイリング、医療機器故障原因の分析について議論が行われました。一方、今回の会合では、医療機器技術者とバイオメディカル・エンジニアが機器の計画保全（PPM）に使用するチェックリストについて、医療機器チャンピオ

ンへ共有するのが焦点となりました。

JICA短期専門家（医療機器管理）の安食氏は、2025年2月から5月にかけての派遣時に、感染予防管理分野のチャンピオンを参考に、医療機器チャンピオンという役割の導入を支援してきました。医療機器チャンピオンは機器の利用者として主に看護師が担い、機器利用者と整備部門間のコミュニケーションを円滑にし、日々のメンテナンス、故障報告や修理・交換を支援する役割を担います。

会合では、提出された修理依頼票の分析に基づき、頻発する故障原因が議論されました。主な原因には、電力のスパイクやサージに起因する不具合、粉じん、水濡れ、利用者による不適切な取り扱いなどがありました。医療機器管理部門が故障原因を分析することで、医療機器チャンピオン、医療



マテロ一次レベル病院のHIV治療部門で看護師と医療機器チャンピオンを務めるフィリ氏が、医療機器チャンピオンの活動成果を発表。

機器技術者、病院管理者、またこれら三者が協働する形で、医療機器管理が実践できる体制へ移行する可能性があります。実際に機器を利用する医療機器チャンピオンにとっては、日常業務の中で、取り扱い方を改善することで故障を減らせるかもしれません。

また、医療機器技術者は、シニアマネジメントに医療機器管理の課題を根拠に基づいて提案し、機器故障の再発防止に向けた介入策を前進させることが期待されました。

あわせて修理依頼票のオリエンテーションが再び行われ、医療機器チャンピオンには医療機器管理部門への提出、同部門には受理後の適切な保管が呼びかけられました。さらに、粉じんによる損傷を防ぐカバーの購入など、低コストの予防的介入を積極的に進めることも推奨されました。

続けて、カニヤマ一次レベル病院の医療機器チャンピオンであるカンダワ氏より、グッドプラクティスが共有されました。具体的には、医療機器チャンピオンと医療機器管理部門間のコミュニケーションが改善し、機器

利用者の責任意識が向上、故障報告への対応の迅速化などが挙げられました。課題としては、故障頻発の原因となる低品質な機器の存在、さらに医療機器管理部門の取り組みを支える予算の不足が指摘されました。

また、今後の対応として、ルサカ州保健局による医療機器管理予算の確保、低品質機器の調達回避に向けた病院管理者への指針提示、推奨仕様に基づく調達の徹底、さらに機器利用者向けの日常点検・保守や専門機器操作に関するSOP整備の必要性が提起されました。

会合の終盤では、安食専門家の帰任にあたって参加者から送別の言葉が述べられました。安食専門家は、「医療機器チャンピオンの取り組みは、ザンビアのみならずアフリカでも初めての試みであり、5つの一次レベル病院が先駆的役割を担っている」と強調しました。また、「この取り組みは、低コストの介入により医療機器故障を予防し、結果として病院コストの削減につながる可能性がある」と述べました。



州四半期医療機器会議で挨拶する、ルサカ州保健局チョオンガ局長



参加者の集合写真

マテロ一次レベル病院、JICAからオートクレーブの供与を受ける

マテロ一次レベル病院の手術部門は、2025年12月5日、JICAの支援により、オートクレーブ（高圧蒸気滅菌器）と逆浸透（RO）水処理機器の供与を受けました。これらの機材は、手術器材等の滅菌に使用されます。今回の供与は、JICAの支援で進められるカシオペア・プロジェクトの感染予防活動の取り組みとして行われました。

同病院のリウマ院長は、「新たに導入されたオートクレーブの影響は計り知れない」と述べました。器材に加え、リネン類や手術用ガウンも容易に滅菌できるようになり、滅菌が徹底されることで患者アウトカムの改善につながると期待されています。また、感染予防・管理の観点からも、手術部位感染の減少が見込まれるとしています。

さらにリウマ院長は、「オートクレーブの供与という約束を果たしてくださったJICAに心より感謝申し上げます。本支援は地域住民へ提供する医療サービスの改善に大きく貢献します。今後も一次レベル病院との連携を継続し、地域のより近くで医

療を届ける取り組みを進めていただけることを期待します。」と病院管理者を代表して謝意を示しました。

今回供与された逆浸透（RO）水処理機器は、オートクレーブで使用する水を事前にもろ過し、機器故障の原因となるミネラル分や不純物を除去するものです。機材の安定稼働と長寿命化に資する重要な設備として位置づけられています。カシオペア・プロジェクトでは、オートクレーブの延命のためにも、この機器の普及をルサカ郡保健局にも働きかけてきています。

なお、本オートクレーブの供与は、カシオペア・プロジェクトと連携する5つの一次レベル病院（チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニャマ、マテロ）が、感染予防管理活動を着実に進め、手術部位感染の兆候を監視しながら感染の低減に取り組んでいる中で、その要因のひとつと考えられる滅菌処理を強化する供与ともなりました。各病院では、サーベイランス結果に基づく介入の実施にも力を入れています。



左から、村井チーフ、ルサカ州保健局のシンカラ主席医療機器担当官、ルサカ郡保健局のマタフワリ医療機器技術者。



マテロ一次レベル病院の手術室に搬入されるオートクレーブ装置。

PHOTO FOCUS



チャワマー一次レベル病院で医療機器チャンピオンへのオリエンテーションを行う、マテロー一次レベル病院のカブウェ氏(医療機器技術者)。



マテロー一次レベル病院手術部のポーターが、新たに設置されたオートクレーブ装置から滅菌済み器材を取り出す様子。



ルサカ郡保健局の郡統合会議で、プロジェクト成果について発表する村井チーフ(2025年12月10日)。



チレンジュー一次レベル病院で医療機器チャンピオンへのオリエンテーションを行う、マテロー一次レベル病院のカブウェ氏(医療機器技術者)。



州四半期看護リーダー会議で発表する、ルサカ州保健局のカンディアタ氏(主席看護官)。



州四半期医療機器会議に出席した、ルサカ州保健局のシンカラ氏(主席医療機器担当官)(2025年12月11日)。



州四半期看護リーダー会議にて患者満足度調査の発表を熱心に聞くルサカ州保健局のチョオンガ局長。

編集・デザイン: コンベ カパタモヨ
編集: 萩原 悠
編集長: 村井 真介

連絡先
村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,
ZAMBIA
Cell: +260 765 192 865 (official)